

○13番(川上晋平)登壇 思ったより早い時間に回ってきまして、まだ地元の方が着いとらんとですけども、本日最後なので、よろしくをお願いします。

私は新政局を代表し、本市の国民宿舎事業のうち、特に国民宿舎しかのしま苑について質問いたします。地元住民を代表して質問いたしますので、行政当局の誠意ある答弁を求めます。

しかのしま苑のある志賀島地区は、海や緑といった自然環境に恵まれ、志賀海神社、金印公園、蒙古塚など、数々の歴史的資産を有する福岡都市圏でも屈指のレクリエーション観光地域であります。しかのしま苑は、昭和38年に旧志賀町によって観光資源を生かした地域振興策として設置され、昭和46年の市町合併時に福岡市に移管されましたが、現在でも志賀島地区の観光の中心的施設として多くの観光客や市民に親しまれております。また、地元地域においても従業員はもちろん、食品の納入業者、お土産屋など多くの住民がこのしかのしま苑と関連して生計を立てているほか、地域コミュニティーの場としても重要な施設となっております。しかしながら、このたび福岡市はこのしかのしま苑を来年9月をもって廃止する方針を明らかにされました。そこでお尋ねしますが、このように市民や地元住民に親しまれているしかのしま苑をどうして廃止しなければならないのか、この廃止の方針はいつ、だれが、どのように決めたのか、この方針が決まる前後、地元地域に対する説明、連絡はどのように行ったのか、お伺いします。また、志賀島地区についてですが、地域の特性をどのように考えているのか。市町合併時の協定書や要望書の中に地元住民の志賀島地区の観光行政への思いが多々うたわれていますが、どのように考えているのか。もし国民宿舎しかのしま苑が廃止されれば、地域の経済、コミュニティーといった観点から、地元住民の生活にどのような影響が出ると考えているのか、あわせてお伺いします。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席で行わせていただきます。

○13番(川上晋平) ただいま廃止の理由について答弁をいただきましたが、さきに行われた地元説明会のときにいただいた資料とほぼ同じ内容のものでした。この廃止の理由に対して幾つか反論させていただきまます。

まず最初に、国民宿舎をめぐる環境は大きく変化しており、本市において公営の国民宿舎の果たすべき役割は極めて小さくなっているという理由に対してですが、確かに設立当時の国民宿舎とは役割や利用者層は変わってきていると思います。現在しかのしま苑の宿泊客の約半分が、また会議、宴会、休憩、レストランの利用に至っては80%以上が福岡市民であり、特に市内の高齢者や障害者の利用者が多く、市民サービスや福祉サービスとしての役割も果たしています。

ここに本年度12年度の4月から11月までに国民宿舎しかのしま苑を利用した団体の名簿があるんですけども、まず地元において老人クラブ4団体、女性団体2団体、福祉団体1団体、商工団体1団体、自治会3団体、PTA6団体、その他3団体、合計20団体599人、地元の方も多くの方が利用しております。また、市内の南区、博多区、中央区と各区のいろんな団体も利用しておるんですが、内訳として、女性団体6団体270名、福祉団体10団体321名、商工団体1団体35名、自治会9団体193名、文化・スポーツ団体11団体251名、その他3団体58名。一番多いのが、老人クラブが59団体1,218名という多くの方が利用されております。まず、老人クラブの方に話を聞きますと、毎年1回このしかのしま苑に来てお祝い魚を食べるのを本当に楽しみにされてある方もいます。こういう方の利用のことも本当に考えて廃止を決められたのかというのを聞きたいところでもあります。

本文に戻りますけれども、また地元住民にとっては地理的に市内の公共施設を初め、いろいろな施設が遠く利用しにくい、会議、懇親会、結婚披露宴などにも利用されており、地域のコミュニティーの場としても重要な役割を果たしています。このように、この国民宿舎しかのしま苑が果たしている役割は今でも極めて大きいのであります。

次に、バス、トイレが各部屋にないなど、最近における利用者のニーズに対応できなくなっているという理由に対してですが、確かにしかのしま苑には各部屋にバスもトイレもありません。しかし、それにもかかわらず、平成11年度にも約5万5,000人もの利用者がありました。これは料金が安い、おいしい魚が食べられるなど、利用者のニーズに十分対応しているからであります。それどころか、エレベーターがないにもかかわらず、毎年多くの障害者の方が利用されています。これはしかのしま苑がそれほど多くの市民に親しまれているということだと思えます。

次に、利用者が減少傾向にあり、経営が悪化しているという理由に対してですが、まず、経営については設備投資を除いた毎年の決算においては黒字であります。また、現在社会全般の景気の悪い中、確かに多く利用者は減っておりますが、それでもしかのしま苑は全国約250の国民宿舎の中で、平成10年度においても宿泊利用率、修正利用率ともにベスト20に入っているからであります。しかも上位19施設のうち、16施設においては既にリニューアルを完了しており、残りの3施設においても温泉を持っている施設であります。以上のことから、当宿舎は従業員の努力もあり、経営的にも非常に頑張っていると言えるのであります。

次に、施設の補修のための一般財源の持ち出しが続いているという理由に対してですが、確かに昭和46年にしかのしま苑が福岡市に移管されて以来、29年間で施設の増改築や修理などに約4億7,000万円の市費を投入しています。しかしながら、もともと旧志賀町が建設して、福岡市が建設費を出してないこと、29年間に多くの観光客を福岡市に呼び込んだこと、さきにも述べましたように、福岡市民の保養の場となってきたこと、そして地元の地域振興、地域住民のコミュニティーの場となってきたこと等を考えるとむしろ安いぐらいであります。

次に、全国的にも国民宿舎は減少傾向にあり、九州内においても廃止が相次いでいるという理由に対してですが、最近5年間で九州で5つの国民宿舎が廃止されております。しかし、これらの施設はいずれも宿泊利用率が約20%から30%と低く、しかのしま苑とは比較にならないものであります。また、先ほども述べましたが、宿泊利用率の全国ベスト20のうち、16施設がリニューアルを済ませているように、観光事業に積極的な自治体もあり、九州でも平成10年に2つの施設がリニューアルを果たしているところでもあります。これまで廃止の理由について反論させていただきましたが、全く国民宿舎の利用の現状を把握しておらず、廃止するために後から取ってつけたような理由であり、施設の老朽化が進んでいるという理由以外はとて納得できるものではありません。もっと地元の意見を聞きながら真剣に誠意を持って検討していただきたい。

質問を続けまます。まず、本市の観光行政についてですが、ことし3月の予算議会での私の質問に、都市観光だけでなく、自然、歴史観光にも力を入れるという答弁をいただきました。来年実施されます中世博多展もその一環だと理解します。しかしながら、福岡市の中で自然、歴史観光の中心と言っても過言ではない志賀島地区において観光の目玉である国民宿舎を廃止しようというのは、自然、歴史を生かした観光行政を推進することに逆行することになるのではないのでしょうか。所見をお伺いします。

次に、地元説明会についてですが、これまでも述べてきたように、このしかのしま苑は地元住民にとって生活に密着した重要な施設であります。市当局も国民宿舎が地域振興を担っていることと認識しているとのことでしたが、どうして方針決定の前に地元へ一言も説明がなかったのでしょうか、お伺いいたします。

2問目の最後です。11月6日の志賀島公民館で行われた住民説明会のことですが、地元住民約80名が集まり、行政当局の3名の方が説明に来ていただきました。突然の国民宿舎廃止の説明に、住民からは多くの怒りや不安の声や

質問が出されました。ある程度質問が出た後に、ある地元の方から、地元としては絶対に反対したいが、どのようにしたらいいかという質問がありました。それに対して当局の担当者からは、市の方針は市長まで上げて決定している。あとは議会で否決されるしかないという答弁でした。こんな、もう決まっているから住民の意見は何も聞けないといったような住民をばかにした答弁が市のやり方なのですか。所見をお伺いします。

以上で2問目を終わります。

○13番（川上晋平） まず、ただいまの答弁についてですが、一番最後の答弁ですけれども、誤解があったかもしれない、質問にそれぞれ回答したのと思うというふうな答弁でしたけれども、余り的確に答えてないと思います。私が聞いているのは、方針を市の方で勝手に決めておいて、もう決まっているから、意見は何も聞けないというやり方は、本市はそういうやり方なのでしょうか。市長からそういうふうなせろと言われとるのでしょうか。もう一度答弁を求めます。

3問目ですけれども、廃止に対して事前に住民に連絡しなかったのは、市として一定の方針をもって挑む必要があったから、観光行政については跡地を含めて今後住民と話し合っていきたいという内容の答弁でしたが、これは国民宿舎の現在の役割や地域の特性、住民の声を考慮していない内容であり、自然、歴史観光を進めていく立場にある観光課としても極めて消極的な考え方ではないでしょうか。本当であれば現在本市で取り組んでおられるDNA運動にもありますように、住民の意見を聞きながら推進していく方向で積極的に検討を進めていくべきでありますし、国民宿舎は利用者に高齢者や障害者が多いことや地域振興を担っていることを考慮し、保健福祉局や市民局とも話し合いをし、住民に対してこういうやり方もあります、こうしてはどうだろうかなどと方針を投げかけていくべきではないでしょうか。今、旧志賀町であります志賀島地区、西戸崎地区において、この突然の廃止の決定の方針に抗議する署名運動が行われています。私も何とかできないものかと住民の声を市の担当者にぶつけましたが、やはりもう決まっている、廃止の方向で来年の予算を要求しているといった答えしか返ってきません。こんな一方的なやり方に住民は怒りを覚えるのと同時に、市営渡船など、ほかの重要な問題も住民無視で勝手に決められるのではないかという不安と行政に対する不信感を覚えております。

先日、市長にお会いし、話をしたのですが、市長は、しかのしま苑が旧志賀町によって観光資源を生かした地域振興策として建てられた経緯や市町合併時の要望書等の内容、地域住民の声などについて御存じありませんでした。山崎市長は、日ごろから市民の中に入って声を聞くのが原点であると言っておりますので、今回の質問を聞いて、住民の声を考えていただけたらと思いますが、そういった市長の考えが観光課に全く反映されていなかったことも重く受けとめていただきたいです。きょうも見えてありますけれども、地元住民は、山崎市長におかれては、必ず地元住民の声を聞いていただき、この問題は一度白紙に戻して、住民も含めて検討していただけるものと信じております。

最後に、山崎市長の御所見をお伺いして、私の質問を終わります。